

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：玉川保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：小林 純子	定員（利用人数）：135 名	
所在地：〒211-0015 川崎市中原区北谷町61番地		
TEL：044-555-1778	ホームページ：http://cyouyou-kai.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2012年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：		
職員数	常勤職員：24 名	非常勤職員：16 名
専門職員	（専門職の名称）： 名	
	保育士：17 名	看護師：1 名
	栄養士：2 名	調理師：2 名
施設・設備 の概要	（居室数）	
	0歳児保育室	沐浴室・調乳室
	1歳児保育室	遊戯室
	2歳児保育室	相談室
	3歳児保育室	調理室
	4歳児保育室	職員休憩室
	5歳児保育室	園庭・バルコニー
一時保育室		

③理念・基本方針

<理念>

社会福祉法人長幼会は、子どもの人権や主体性を尊重し、保護者と一体になり心身ともに健康な児童を育てることを目標にしています。さらに児童の最善の幸福の為に、利用者及び地域と協力し児童福祉を積極的に推進するとともに地域の子育てに力を尽くします。そのため、職員は豊かな愛情をもって児童に接し、児童の最善の利益を尊重するための知識の習得と技術の向上に努めます。また、子育て支援の為に、常に社会性と良識に磨きをかけ、相互に啓発し合うことを継続しています。

<基本方針>

1. 法人の保育理念である「高齢者や地域の方々の人材資源」を活用し、次代を担う子どもたちとその家族を支えるより良い保育環境（保育園）を構築する。
2. 子どもたちの最善の利益を守り、安心安全な保育（園・環境）を目指す。
3. 子ども達の健やかな育ちを支援し、地域の子育て支援の拠点としての役割を果たす。
4. 高齢者や地域の方々とのふれあいを通した心豊かな保育を目指す。

＜保育目標＞

「思いやりのあるたくましい子の育成」

子ども間の年齢を越えた交流やふれあい体験、遊びや季節行事などを通して、「思いやりのあるたくましい子の育成」、人間形成の基礎となる思いやりの気持ちや心身ともにたくましい子の育成を保育目標とします。

＜目指すこども像＞

- ①たくましい子（社会性・自立心）
- ②仲良くする子（優しさ）
- ③よく考える子（自発性・知的好奇心）

④施設・事業所の特徴的な取組

＜玉川保育園の特長＞

●法人の理念・基本方針を念頭に保護者支援や地域に寄り添った連携に力を入れています。

- ①地域との連携
- ②地域における公益的な取り組み・保育の質の向上に関する取り組み
- ③三者（保育士・看護師・栄養士）連携保育
- ④家庭的保育室連携園

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年10月01日（契約日） ～ 2021年03月12日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（2015年度）

⑥総評

【玉川保育園の概要】

●川崎市立玉川保育園は、川崎市の公立保育園民営化の施策に沿い、平成22年9月に社会福祉法人長幼会（以下、法人という）が経営を引き継ぎ、平成24年2月末に新園舎竣工・引き渡しを経て、4月1日に社会福祉法人長幼会玉川保育園が誕生しました。円滑に移管が進むように平成23年10月から平成24年3月まで川崎市の保育職員と共同保育を行い、適切に引き継ぎが実施されました。玉川保育園は、住宅街に位置し、鉄筋2階建ての園舎で、玄関入り口目の前には広いホールが開放感を醸し、その一角に広い事務室が設けられ、子ども・保護者等ともコミュニケーションが図りやすい設計になっており、ホール・事務室から見渡せる園庭は広く、屋上園庭もあり、そこにはプールとシャワーが設置され、広々とした開放感溢れる新園となっています。

●旧公立保育園は地域中核園としての役割を担い、玉川保育園もその役割を立派に引き継いでいます。中原区の保育園が協働で「ベビーミメクロひろば」（0歳児連続育児講座）を実施する玉川地区の統括を担い、地域における公益的取り組みである行事開放、園庭開放、育児講座、遊戯室開放、身長・体重を測定できる子育てひろば等、率先して実施し、地域に寄与しています。また、制度化された家庭的保育室の連携園としてのサポートも行う等、地域の子育て支援の核として積極的に推進を図っています。

●玉川保育園が所在する玉川地区では、地域コミュニティ活性化として「中丸子南緑道緑を守る会」のボランティアが長年に亘り緑道の開拓を進め、緑化に取り組んでいます。玉川保育園の5歳児も中丸子緑道の花植えに参加し、地域の方々と交流を深めています。緑化された道は通学路として地域の小・中学生が通り、園の子どもたちもいずれこの道

を通過して通学する道です。玉川保育園が、園児と地域の方との交流を模索していた際に、地域の民生委員から緑道の活動を次世代に伝えたいという思いを聞き、賛同し、交流が始まりました。ボランティアの方々が高齢化が進み、この活動や地域の防災活動において次世代への引き継ぎに苦慮されており、玉川保育園としても地域の現状や地域連携の大切さ、将来この地域を担っていく園児や保護者に伝えていくことを大切に考え、一緒に取り組んでいます。園長は、子どもたちが生まれ育った地域を守り、地域の方と地域の中で、安心して成長していった欲しいと願い、「今」を大切に育んでいます。

◇特に評価の高い点

1. 【大型園ならではの取り組み】

●玉川保育園は、0歳児9名、1歳児23名、2歳児25名、3歳以上児は各26名の定員を擁する大型園です。0歳児の保育は、基本1対1の対応で子どもとの愛着関係の醸成を育み、1歳児では月齢での成長差を考慮し、低月齢と高月齢に分けて2クラスを編成し、2歳児も2クラスに分け、子どもの成長に応じた保育、同じ月齢同士の刺激・楽しさにつなげています。3歳以上児は、団体生活が本格化し、団体の中で「自分」を表現できるよう様々な場面で支援しています。園では、保育の形態を年齢・月齢別、年齢別、上のクラスとの異年齢保育の実施等、バラエティを付けながら、子どもを主体にしたより良い方法で保育を進めています。

2. 【特色ある保育】

●玉川保育園は、特色ある保育を幅広く展開し、豊かな保育を提供しています。地域の子育て支援の核になる保育園を目指し、地域の一般の方対象の「たんぼひろば」（年2回、あそびの広場、離乳食相談、健康相談等）、「おひさまひろば」（月1回第1火曜日、あそびの紹介、身体測定）、「園庭開放」（毎週火、金曜日）等、積極的に地域の子育て支援に尽力しています。園の特徴ある活動としては、月2回の「体操教室」（3歳～5歳児対象）、年10回の「おはなし会」（3～5歳児対象、但し3歳児は10月から）、お泊り保育（5歳児対象）、食育活動を食育計画に沿って活動しています。また、「三者連携保育」活動に取り組み、例えば、骨を丈夫にするテーマでは、保育士は育成について、看護師は身体の構造について、栄養士は食べ物について等、それぞれの専門職の知識を共有し、分担して生かし、子どもと話す・教える活動に取り組み、子どもの成長を育んでいます。地域の施設との交流では、玉川地区の他保育園、小規模園との交流を深め、世代間交流については、地域の高齢者施設やデイサービスに園児が訪問して温かい交流を展開する等、園のベクトルに沿った多くの特色ある活動を精力的に実施しています。

3. 【一時保育・家庭的保育支援事業の実施】

●玉川保育園では、一時保育事業を実施しています。一時保育では、保護者が3日以内の就労・就学等で継続的に保育が困難となる世帯（利用日数：週2～3日）、保護者の疾病等で緊急に保育が必要となる世帯（利用日数：週1日程度、または連続14日以内の緊急利用）の子どもを対象に、地域の一般家庭の子育てのサポートを行っています。また、家庭的保育支援事業では、園舎前の「家庭的保育室やまんち」を連携保育園として提携し、地域の子育て支援情報・交流保育の提供や園庭開放、行事への招待、園だよりの交換、避難訓練の合同実施、合同健診、代替保育、卒園児の受け入れ（3歳児）、給食の外部搬入（除去食対応）を提供し、健康・栄養相談、家庭福祉員（保育ママ）の休暇の際に子どもを預かる等、サポートに尽力しています。

◇改善を求められる点

1. 【旧公立園から継続した施策の見直し】

●玉川保育園の課題は、良くも悪くも旧公立園の引き継ぎの遺産であると思われます。再来年度で開所して10年が経過します。引き渡し後当面の間、旧公立園で実施していた行事等は継続要請を受け、約束を守り続けながら玉川保育園の運営を実施してきた実績は明確であり、今後、その施策の総決算が必要と思われます。基本的に公立と民間は総花的・特徴的に大きな違いがあると思われますので、10周年を機に施策の総ざらいを一考されることを期待いたします。社会福祉法人長幼会の特徴を明確にした、取捨・選択された取り組みを中心として特徴ある「玉川保育園」の確立を期待しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：社会福祉法人長幼会 玉川保育園

<評価に取り組んだ感想>

第三者評価受審の自己評価は、職員がグループに分かれ自己評価に取り組みました。まとめをしていく中で、職員の中で受け止め方が少しずつ違い、色々な場面で伝えることの大切さを再確認しました。どの一つをとっても、職員間の連携を図ることの難しさ、共通理解の対応を考えなくてはいけないと再認識しました。情報シートに記載しましたが、玉川保育園としての質の向上・保育士の質の向上に初心に帰り、取り組んでいきたいと思えます。

<評価後取り組んだ事として>

1. 人材確保
2. 職員育成(管理職・リーダーの育成について)
3. 目標達成のための中・長期計画の周知徹底

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり